

メイドインジャパンのコスメ製品を、 佐賀からアジアへ。 コスメ産業におけるアジアの拠点をめざす 佐賀県のチャレンジ。



フランスにある世界最大級の化粧品産業集積地域「コスメティックバレー」。
そのアジア版をめざしている地域が、日本にあることをご存じだろうか。
アジア市場に最も近い県の一つ、九州「佐賀」から、新たなビジネスチャンスが生まれようとしている。

佐賀県が進める「コスメティック構想」とは、唐津市、玄海町を中心とした佐賀県ひいては北部九州に、美と健康に関する産業を集積し、成長するアジア市場のコスメの拠点をめざすというものだ。この構想がスタートしたのは、2013年。きっかけは、2012年にフランスの「コスメティックバレー」のアルバン・ミュラー名誉会長が佐賀県唐津市、玄海町を訪れ、「この地にコスメ産業が発展するのは間違いない」と太鼓判を押したことだった。

評価のポイントは4つ。第1のポイントは、アジア市場との近接性だ。北部九州の玄界灘に面した唐津は日本のなかでも最もアジア市場へ近い地域の一つで、最大3万トン級の大型貨物船が接岸可能な唐津港国際ふ頭も備えている。加えて九州最大の都市・福岡にも隣接。高速自動車道も整備されており、福岡空港へも1時間ほどの距離だ。

第2のポイントは、唐津にはすでにコスメ産業のミニクラスター（OEM工場、検査分析機関、物流企業）が形成されていたこと。製造から検査・物流までを一貫して行えるベースがあったのだ。なかでも検査分析機関は日本有数のレベルを誇っている。

第3のポイントは、唐津に隣接する玄海町にある「玄海町薬用植物栽培研究所」の存在だ。薬草の安定的な自給と品質向上を目指す本格的な研究拠点であり、常時約200種類もの薬用植物が栽培され、新たな原材料の可能性が検討されている。



コスメ産業の集積が進む佐賀県唐津地域(虹の松原)

そして最後のポイントが、豊かな自然環境。唐津は、日本を代表する美しい松林「虹の松原」など、風光明媚な景観を誇る。豊かな自然環境は、化粧品や健康食品のブランドイメージを高める重要な要素の一つであると同時に、豊かな大地が育む天然由来原料にも期待が寄せられている。

佐賀県コスメ構想を推進する中核組織、ジャパン・コスメティックセンター（JCC）の会員は174社、支援会員は19機関・団体（2016年12月末現在）。佐賀県をはじめとする3つの行政機関、化粧品・美容関連のメーカー、原料メーカー、流通企業、小売企業、金融機関、佐賀大学、九州大学など、産官学の垣根を超えた多彩なメンバーが、連携体制を構築している。

そんなJCCが最も得意とするのが、ニーズをもつ企業同士のマッチングだ。そのネットワークは海外にも広がりつつあり、すでにフランス、イタリア、スペイン、台湾、タイのコスメクラスターと連携協定を締結し、双方の会員企業同士のマッチングに取り組んでいる。さらには、唐

津産無農薬レモンを使ったクレンジングクリームや、嬉野産の茶の実油を使ったスキンケアクリームなど、地元素材の原料化や商品化でも成果をあげつつある。

佐賀県コスメティック構想推進室の大橋室長は、今後のビジョンについてこう語る。「ぜひ多くの海外企業とも連携していきたいと考えています。こんな会社を知らないか？こんな原料がほしいなど、コスメのことならどんな相談にも対応し、ベストな橋渡しをします。とりわけ佐賀県への進出を心待ちにしています。進出企業に対する佐賀県のサポートの厚さは日本でもトップクラスです。用地、人材採用など、すべての面で佐賀県とJCCが連携し支援することをお約束します」

佐賀県に拠点を置き、付加価値の高いメイドイン佐賀の製品を作り、成長するアジア市場へ展開する。そんな佐賀発のビジネスモデルが近い将来、コスメ業界でトレンドになるかもしれない。